

目標の進捗状況報告書

(2013年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

本シートでの自己点検・評価を行う部局と項目・要素は次のとおりである。

| | |
|------|--|
| 対象部局 | 神学研究科 |
| 大項目 | 11 教員・教員組織(研究科) |
| 中項目 | |
| 小項目 | 11.0.1 大学として求める教員像および教員組織の編制方針を明確に定めているか。 |
| 要素 | 教員に求める能力・資質等の明確化 教員構成の明確化 教員の組織的な連携体制と教育研究に係る責任の所在の明確化 |
| 小項目 | 11.0.2 学部・研究科等の教育課程に相応しい教員組織を整備しているか。 |
| 要素 | 編制方針に沿った教員組織の整備 授業科目と担当教員の適合性を判断する仕組みの整備 研究科担当教員の資格の明確化と適正配置(院・専院) |
| 小項目 | 11.0.3 教員の募集・採用・昇格は適切に行われているか。 |
| 要素 | 教員の募集・採用・昇格等に関する規程および手続きの明確化 規程等に従った適切な教員人事 |
| 小項目 | 11.0.4 教員の資質の向上を図るための方策を講じているか。 |
| 要素 | 教員の教育研究活動等の評価の実施 ファカルティ・デベロップメント(FD)の実施状況と有効性 |

II. 目標の進捗状況評価と進捗状況報告(2013.4.30現在の進捗状況報告)

《進捗状況評価》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の自己評価を行っている。進捗状況評価はA、B、C、Dの4段階とし、2013年4月30日現在における目標の達成度評価(2013年度の達成に対してどこまで進んだかの評価)を行った。A、B、C、D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
- B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
- C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
- D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

| 2009年度に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 進捗状況評価 | | | | |
|---|--|--------|------|------|------|------|
| | | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| 1. カリキュラムマップに基づいて、教員組織の編成方針を策定する。 | →教員組織編成方針の策定(2013年度までに) | C | C | C | B | / |
| 2. 神学研究科内規に基づいて、教員組織を検証する制度を整備する。 | →既存の人事委員会における検証および研究科委員会に対する報告書の作成(2013年度より) | C | C | C | C | / |
| 3. ファカルティ・デベロップメント(FD)活動を通じて教員の資質向上を図る。 | →研究科の授業改善報告を取り入れたFD研修会の実施(年2回)。 | C | B | B | B | / |
| | | | | | ☆ | |
| 2010年度以降に設定した「目標」 | 左記目標の「指標」 | 2009 | 2010 | 2011 | 2012 | 2013 |
| | → | / | / | / | / | / |
| | → | / | / | / | / | / |

《進捗状況》 ☆

目標の進捗状況について次のとおり簡単に説明する。

| | |
|-----|--|
| 目標1 | 2012年度にカリキュラム・マップが策定され、理念・目的に基づいた専門領域、およびそれを実現する教育課程編成の検討が始まっている。その過程において教員組織編成方針についても、研究科副委員長を中心にカリキュラム研究委員会(研究科)にて、緩やかにはあるが議論が始まっている。学部の教員編成とも強く関連することから、まずは学部における一定の結論を待っている状態でもある。 |
| 目標2 | 研究科における教員組織編成方針の明文化を受けて、教員組織検証制度について検討を開始する予定である。 |
| 目標3 | FD研修会(研究科)は専任(年2回)／非常勤教員(年1回)ごとに開催し(学部と合同実施)、それぞれの視点での独自課題にも言及している。前段階としては本研究科授業における現状の把握と改善に係る課題の洗い出しが必要であり、そのひとつの方法として学生による授業調査の実施が挙げられるが、まずはその回収率をあげる工夫について検討を行っている。 |
| 備考 | |